

人生を豊かに生きていく教養人となるために

紫波町教育委員会

教育長 佐 美 淳

■ 紫波町の名誉町民である野村胡堂（作家）・あらえびす（音楽評論家）の偉大な功績を称え、その名前を冠した「読書と音楽の感想文コンクール」も九回目となりました。今回も多く町の民や県内外の皆様のご理解とご支援をいただき、総数で百二十六点の応募がありました。感想文に紡がれた言葉には、それぞれの感性や思いが満ち満ちており、読書や音楽を通して素敵な人生を送っていることが垣間見ることができました。

■ 紫波町民憲章の四番目に「教養を高め、心豊かなまちをつくりましょう」と記されています。紫波町民が目指し、そのような町民になるための行動目標です。このことは「全ての人」にも当てはまる人類共通の普遍的な目標とも考えられます。教養とは世の中の事象や物事についての知識を多く持っていることではなく、日常の文化活動をおし、それによって個人が身につけている「創造的な理解力や知識」とされています。このコンクールへの応募は正に「皆さん一人一人の教養を高めること」につながる行動であると考えます。

■ 胡堂・あらえびす曰く、『この世に生まれて、芸術を味わう喜びは、何にたとう（譬う）べきだろう。文芸、美術、音楽、演劇それぞれの分野から、すくい取れるだけの高いもの、美しいものをすくい取って、自分の生命を豊かにする望みがなかったならば、何とこの世の味けなく寂しいことであらう。』

私たちも胡堂・あらえびすの教えである「芸術を味わう喜びをおし、自分の生命を豊かにすること」を体現してまいりましょう。

■ 本が好きな人には、音楽を聴くこともお勧めします。音楽が好きな人には、本を読むこともお勧めします。このコンクールが皆さんの感性や創造力の伸長、そして教養を高めることに寄与することを心から願っています。